広報かがみの 1
2020年1月号 第179号 毎月1日発行

シリーズ 第116回

忘れられつつある正月行事

かつて、年の初めの正月といえば、新年の訪れを祝うと共に、各所に宿る神様に感謝の意を捧げ、この一年を健康で豊かに過ごせますようにとの願いが込められた様々な行事がありました。近年は生活様式も大きく変化し、このような風習は廃れつつあり、ほとんどの方はその存在さえも知らなくなってきています。今回はこうした正月の風習の一つをお話ししたいと思います。

てっちりこ

ホトホト
（作：永田米一　提供：美若忠生）

一月一五日前後は「小正月（こしょうがつ）」といい、正月のお飾りをおろしてトンドを行います。かつてはトンドの後に、わらで作った綱の先に玉がついた「てっちりこ」で嫁の尻をたたき、安産祈願をするという風習があり、昭和初期頃に廃れたようですが、近年羽出地区で復活し、現在は観光施設でイベント的に行っていることもあって、少しずつ周知されてきつつあります。

もう一つ、町内で行われていた小正月の行事として「ホトホト」というものがあります。これは、小正月の夜に、わら細工のホトホトを持って子供達が家々を回り「ホトホト」と言って戸口をたたくと、家の人が中から少し戸を開けて、みかんやお菓子、餅などを与え、ホトホトを受け取り、子供達は早く退散しなければ家の人に柄杓の水をかけられる、という行事です。

その起源は定かではありませんが、本来は家々を訪れ人に祝福をもたらす「来訪神」を迎える行事が形を変えて子供の遊戯となっていったようです。また、水をかけられないようにするというのは、火災や病気などの厄除けの意味もあるという説もあります。

同じような正月行事は全国にあったようで、県内でもかつては各地に存在し、呼び名も県北では「ホトホト」ですが、県中部では「コトコト」、備中南部では「ゴリゴリ」他にも「カイカイ」「トラヘイ」などがあります。また、家々を回って戸をたたき食べ物をもらうということはおおむね一致していますが、餅や酒だったり、一部の地域では「カユモライ」といって柄杓を持って訪れ、家の人に豆粥を入れてもらう地域もあったようです。対象も子供だけでなく青年、厄年の人の場合もあります。さらに水をかけられないように逃げるという部分も、物陰に隠れて顔を見られないようにするとか、変装して誰かわからないようにするなどさまざまです。

写真のホトホトは、羽出西谷の方が平成一五年頃に再現したもので、一本のわらを半分に折って縄をない、二〇cmくらいで結んだものを二本組み合わせたものです。これが何を意味するものかといえば、新庄村や津山市の宮部などでは「銭ツナギ」（銭綱）といわれ、わら縄に一文銭をさして家々を回るという風習だったというところから推測して、羽出地区のホトホトも本来はこうした銭ツナギのようなもので、行事が子供中心のものになっていくにしたがい、銭をささず、わらのみを持って回るようになったのかもしれません。このわら細工も、高梁市有漢町では「コトコト馬」という馬の形に編み上げたわら細工でした。

現代の感覚からみれば前時代的な風習にも思えますが、こうした行事を大切にしていた時代は、情報も物資も満ち溢（あふ）れた豊かな現代社会に生きる私達が忘れてしまった、「心の豊かさ」があったような気がします。

参考資料：『奥津町の民俗』『岡山民俗事典』『岡山の祭りと行事』『岡山県の正月行事』『美作の民俗』『鏡野町史』民俗編

協力：美若忠生

鏡野町教育委員会　生涯学習課　日下
電話（0868）54-7733

〒708-0392 岡山県苫田郡鏡野町竹田660 鏡野町くらし安全課 TEL0868-54-2780
【鏡野町のホームページアドレス】http://www.town.kagamino.lg.jp/